

# ふるさと探訪

## 第80回 大元神社の大杉



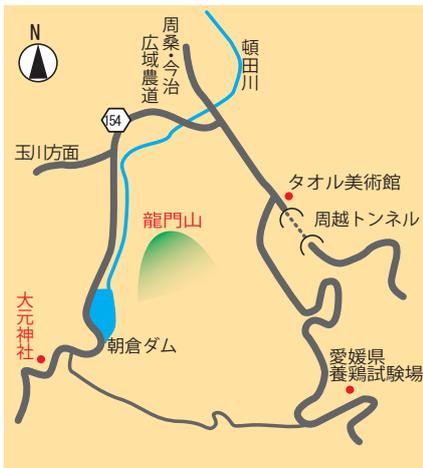
平家の落人伝説を秘めた黒谷地区は、今治市朝倉地区に接した山間部の集落です。その鎮守である大元神社の社叢しゃそうには、樹齢八百年と推定されている一本の大杉があります。



競うようにどの木も背筋を伸ばしそびえる杉林にあつて、樹皮を苔の色に染めながら老木らしい風格をたたえる大杉

昼なお暗い杉林の中でも、その老木が圧倒的な神々しさを醸し出しているのは、目通りが7呎、根回りが9・5呎、そして高さが約20呎もあり、周囲の木々とは次元の異なる存在感を放ちながら、スツと天空にそびえているからです。大樹の中心部には落雷による焼け跡があることから、往時には現在をさらにしのぐ巨木であったのかも知れませんが、樹勢は今もお盛んです。

悠久の時をこの地で過ごしてきた生命力の神秘に感動を覚えながら鳥居を出て境内を振り返ると、大杉の姿はもう木立ちの中に紛れていました。



大元神社では、大杉だけでなく、本殿前に対で立っている檜の双樹も、市の天然記念物の指定を受けています



鳥居越しに見る大元神社の社叢